



船舶にかかる国際標準化等に関する アンケート結果（2020年度）



2020年9月30日
第32回標準部会

アンケートの実施概要

- ◆ 実施期間：2020年7月8日～8月7日
- ◆ 実施対象：当協会の賛助会員及び標準部会（分科会、WGを含む）約200社（注）
（注）団体賛助会員からその構成会員へ通知されているものは含まない。
- ◆ 回答数：65（昨年度35）

設問	質問内容	設問	質問内容
1	船舶に係る国際規格（ISO/IEC）、船舶部門日本産業規格（JIS F）にしたい、製品・試験等がございましたら、その概要及び理由をお書きください。	6	業務で役立っている又は役立つ可能性のある、船舶に係る国際規格（ISO/IEC）・船舶部門日本産業規格（JIS F）をお書きください。
2	船舶に係る国際規格（ISO/IEC）、船舶部門日本産業規格（JIS F）が必要と思われるものがあれば、当該製品・試験等の概要及び理由をお書きください。	7	どのような研修・セミナーを希望されますか
3	船舶に係る既存の国際規格（ISO/IEC）・船舶部門日本産業規格（JIS F）で、内容が現実とそぐわない等、改正したほうがよいものがあれば、当該規格番号及びその理由をお書きください。	8	現在の当協会の標準化活動への対応について問題点があれば、お書きください。また、その解決策があれば、併せてお書きください。
4	2. 及び3. の設問のいずれかに「ある」とご回答された方にお伺いします。 国際標準（ISO/IEC）・日本産業規格（JIS F）の新規作成又は既存規格の改正にあたり、担当所となり作業をご主導頂くことは可能でしょうか。 回答：可能、不可能、保留、その他	9	その他の当協会の標準化活動へのご意見、ご要望等ございましたらお書きください。
5	船舶部門日本産業規格（JIS F）で、国際規格（ISO/IEC）にすべきものがあれば、当該規格番号及びその理由をお書きください。		

設問1: ISO/IEC規格化、JIS F規格化したい、製品・試験等。

◆ 回答数(意見有) :3

回答者	製品名	概要	対応
船用メーカー	マグネットコンパスレピータ(マグネットコンパス羅盆上にセンサを備え、そのセンサがとらえた方位を電子的に表示する)	従来のビナクルを省略する事で、マグネットコンパス装置の搭載条件が緩和される。また、船体への穴あけが少なくなる。 磁気コンパスから方位をPick upし方位表示器に表示させ、操舵に用いる製品のISO規格化提案。 国内造船所からの引き合いもあるため、ISO/JISの両方を希望。 規格が無いため、船級から承認を得る際には都度試験方法を打ち合わせて実施しており非常に負荷がかかっている。	製品に基づく標準化提案であり、且つ提案者がISO/JIS共に精通しており規格化も実現できることから、 <u>次年度調査研究候補の1つとする。</u>
造船所(船用機器)		現状ありません。ただし、英国が2013/53/EU(プレジャーボート指令)に変わる独自の指令を作成し、それに付随する規格を検討する際には、船技協の参画をお願いしたい。→英国がEUとの規格調和を図るような動きを取りたい。	UKの国内法規案件であり、当会が担当する標準化事業での対応は難しい。

主なご要望を掲載

- ◆ 設問2: ISO/IEC/JIS化が必要な当該製品・試験等の概要及び理由
- ◆ 回答数(意見有): 5

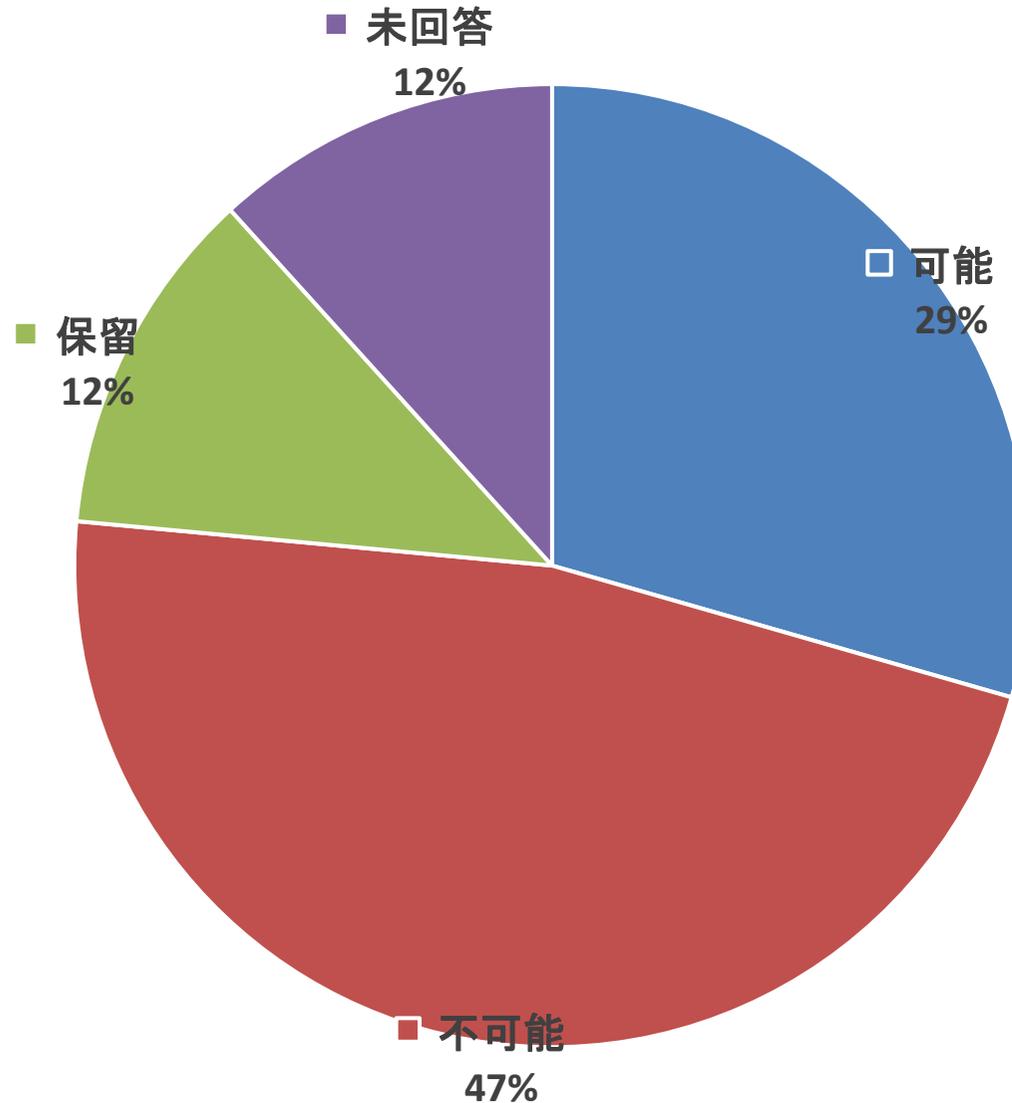
回答者	製品名	概要	対応
舶用メーカー	EGCS用水質モニタ	PAH:ガイドラインに測定原理は蛍光/紫外測定と記載されているだけで光源・受光部の条件があやふやである。これがメーカーによって測定値が異なる要因になっていると思われる。また、標準物質であるフェナトレンは有害性であり有機溶剤にしか溶けないため、船内での校正が難しい。 濁度:濁度の標準物質はホルマジンで白濁した液であるが、EGCS排水は黒色のため標準液との差が大きい。	IMO基準をISO規格で技術的に補完する提案。 <u>次年度調査研究候補の1つとする。</u>
船主	船舶における病室に対する感染症対策及び、感染症患者に対する隔離対策に関する設備規格	現在猛威を振るっている新柄コロナウイルスと同様な感染が今後船内で発生した場合に備え、本船内での拡散防止及び、感染者の隔離が可能な設備を構築する船舶が増加すると考えられる。その場合に、適応する規格があると施工内容や品質水準が統一でき、有用であると考える。	必要性は理解するが、以下の理由により、現状での標準化は困難。 ① COVID-19対策専門家及び国としての方針・法規が不在。 ② 換気容量、負圧、配置などは基準(法規)で定める話。標準化は基準が出来てからとなる。 参考 ISOではISO 7547 (船の居住区の空調及び通風)に病室に関する記載(病室の空気は外気へ直接排出し、再循環してはならない)があるだけ。

◆ 設問3: 既存ISO/IEC/JISへの改正要望

◆ 回答数(意見有): 10

回答者	製品名	概要	対応
研究所	ISO/PAS 23678 (救命艇(フリーフォールを含む)及び救助艇(高速救助艇を含む)、進水装置及び離脱装置の整備、総点検、運用試験、オーバーホール及び修理要員)	この規格は、出来れば廃止に持ち込むべく、JGと協力して、IMO SSEでMSC.402 (96) の解釈を整備する必要があるかもしれない。	3年後の定期見直しあるいはISにするためのDIS投票が開始した場合に救命及び防火分科会(救命)で対応する。
造船所	JIS F 2001:2017 ボラード JIS F 2053:2017 クローズドチョック JIS F 2054:2017 係留チョック JIS F 0051:2003 船舶救命及び消火設備の図記号	改正ではありませんが、上記JIS(2001, 2053, 2054)の英訳版を作成して頂きたい。 JIS F 0051:2003の図記号はIMO Res. A.1116(30)及びIMO Res. A.952(23)により改正されると思います。内容はこれらの物を組み合わせて使用することになっており、図面で使用される図記号と船に実際に貼る記号と同一とならないため、航行後の混乱等を防ぐため、図面と船に実際に貼る記号とを統一してもらいたい。	JIS F 2001、JIS F 2053及びJIS F 2054は国際規格を基礎としている。 JIS F 0051の改正は指摘のとおり考慮すべきことが多く、防火検討会、事務局で継続検討。関係者は幅広く防火検討会だけでは対応不可。対応ISO規格も作成中でありこれが終わってから検討。
船用メーカー	ISO 799 / JIS F 2615 パイロットラダー	JIS記載文3.1の木製部品材料ですが、節なしの堅木と記載があります。HK等の証書発行がされている製品に完全に節なしのものはあまり見かけません。完全に節がなくても承認可能なものなのでしょうか。海外の港にてHK証書が発行されているラダーを指摘されて新品に交換したこともあります。多少の節が考慮されるのでしたら、節についての定義をはっきりさせたほうが良いと思います。	HKの型式承認基準も節無しのラダーのみを承認しており、JIS F の規定「各々の木製部品は、節なしの堅木(トネリコ、オーク、ニレ、ブナ、チーク、アピトン又はチューリップウッド)で製作しなければならない。」と相違しておらず、変更を要しない。

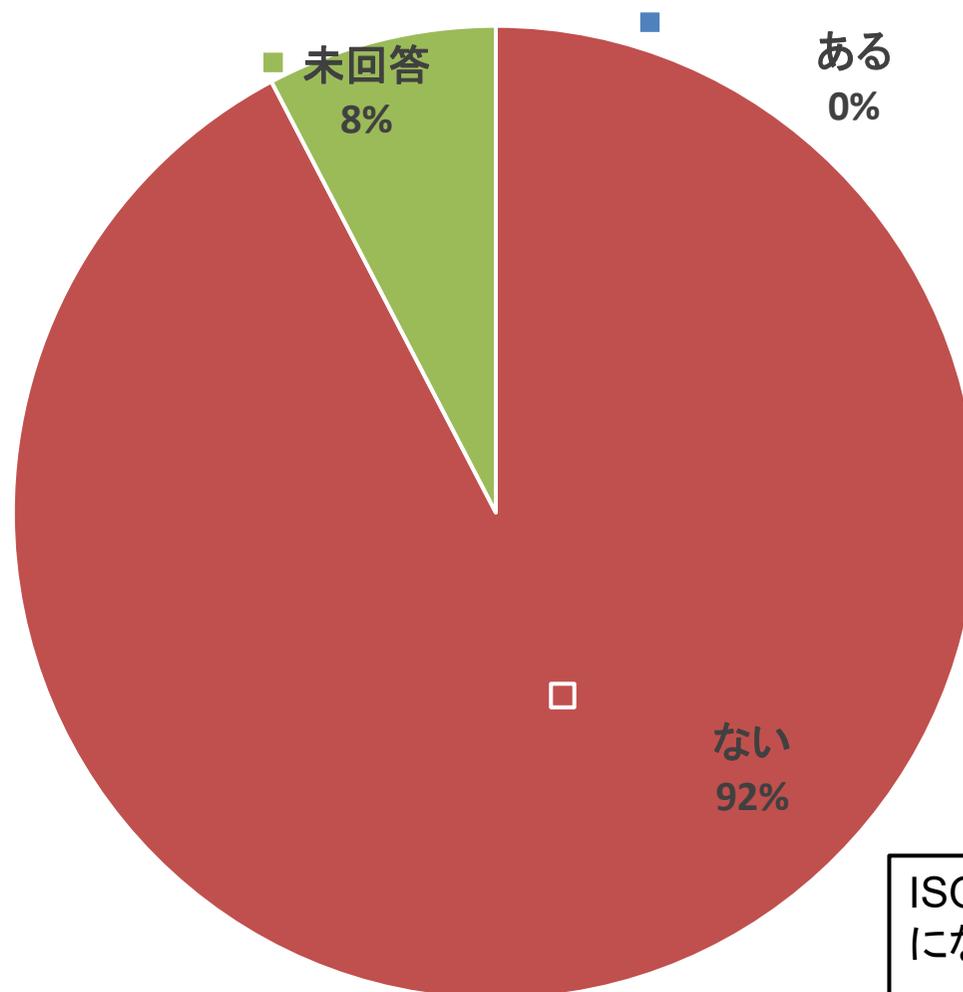
- ◆ 設問4: 設問2及び設問3への意見提出者を対象とした提案した規格案の作成引き受けの是非
- ◆ 回答数(意見有): 17



不可能の理由:

1. 製造者ではなく使用者としての提案
2. 人が少なくマンパワーに余裕がない。

- ◆ 設問5: 既存JISでISO/IEC化をすべき規格
- ◆ 回答数(意見有):0



ISOにすべきJISは既にISO
になっているためと思われる。

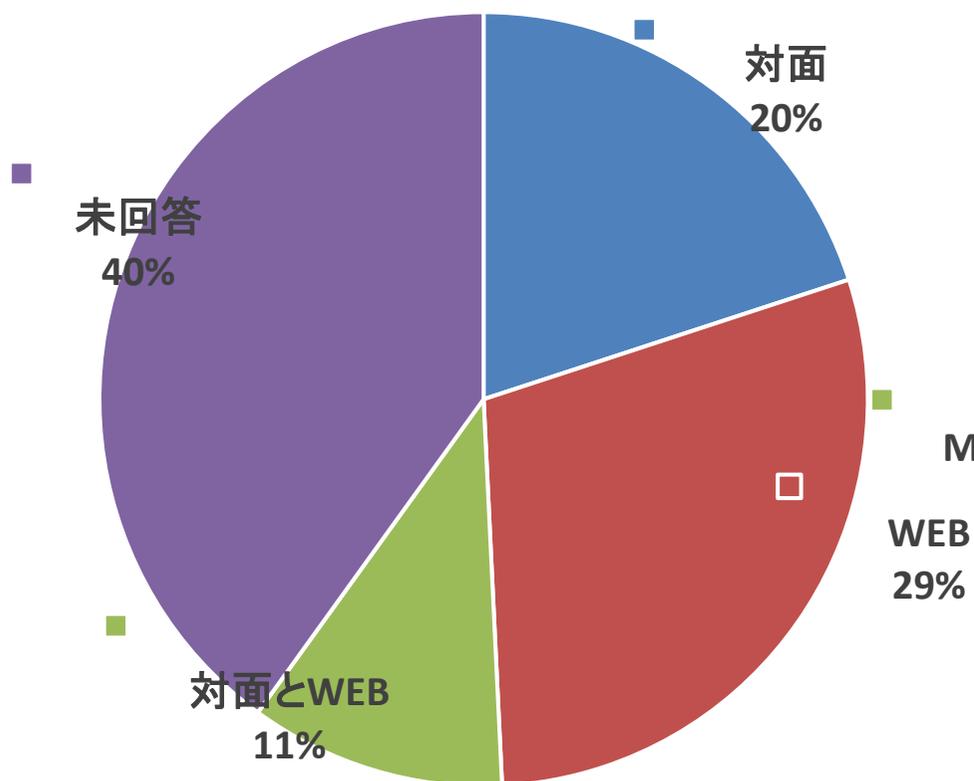
◆ 設問6: 業務で役立っているISO/IEC規格

◆ 回答数(意見有) :34

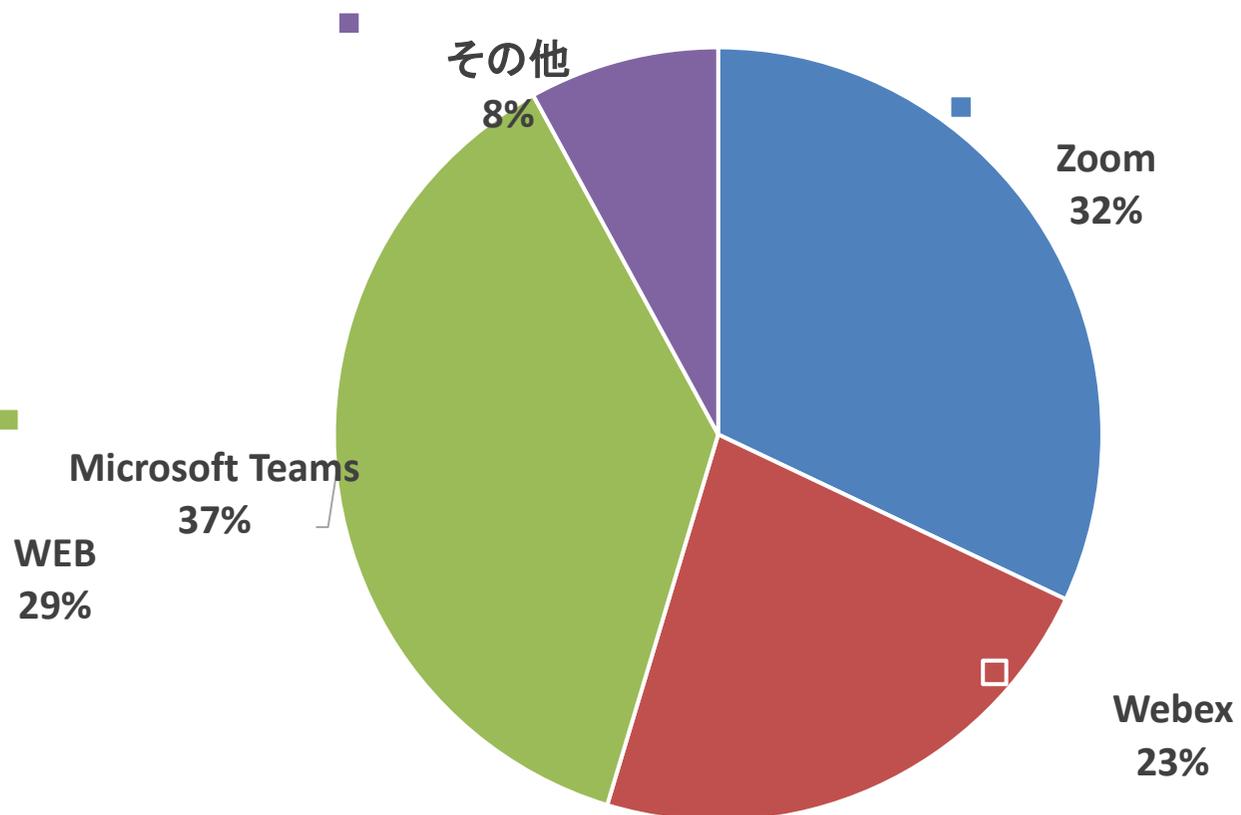
回答者	JIS/ISO/IEC規格
造船所	JIS F全般 (仕様の決定基準や画一化に利用。品質の確保) JIS F 弁類全般、配管付着品 等 (係船装置図作成に使用。機器発注時の参照規格等) JIS F 0061 船用機器の英字略語 (新人教育) JIS F 2001 船舶及び海洋技術-ボラード (係船装置図作成に使用。機器発注時の参照規格等) JIS F 2053 船舶及び海洋技術-クローズドチョック (同上) JIS F 2054 船舶及び海洋技術-係留チョック (同上) JIS F 2318 鋼製風雨密一枚戸 (同上) JIS F 2407 マッシュルーム通風筒 (同上) ISO 7547 船の居住区の空調及び通風 (感染症対策等)
船用メーカー	JISF 0812 船舶の航海と無線通信機器及びシステム- 一般要求事項 (IEC60945の和訳版として有用) JISF 7300~JISF 7500 船用弁、コック全般 (製品の設計・製造・検査) ISO 9875 船用音響測深装置 (型式検定取得に必須) ISO 11674 船首方位制御装置 (オートパイロット) (型式検定取得に必須) ISO 13073-1,2,3 船舶の防汚方法に関するリスク評価 (評価方法・基準の明確化は、各国市場での展開に有用) ISO 19847 船内データサーバー (通信データが規格化され、船ごとの作り込みが不要となり、船内のIoT化が進む) ISO 19848 船内データ標準 (同上) ISO 22090シリーズ 真船首方位信号伝達装置 (型式検定取得に必須)
検査機関	多数 (鋼船規則等で参照) JIS F 0808 船用電気器具環境試験通則及び8008 船用電気照明器具通則 (機器のEMC・環境試験サービス) ISO 15016 試運転速力補正方法 (実船試運転の方法及び解析での対応) IEC 60533及びそのJIS 電磁両立性 (機器のEMC・環境試験サービス) IEC 60945及びそのJIS 船舶の航海と無線通信機器及びシステム- 一般要求事項 (同上)

◆ 設問7: 研修・セミナーの希望

研修及びセミナー等の開催方式



会社で使用が許可されているWeb会議システム



◆ 設問7: 研修・セミナーの希望

回答者	希望
造船所	<ul style="list-style-type: none">・提案から国際対応までできるような人材を育てるための研修・IoT/ICT関係標準化セミナー・新しく制定されたISOとJISの概要紹介
船用メーカー	<ul style="list-style-type: none">・ISO規格化の流れ・ポイント等の概要を学ぶ初心者でも参加しやすいセミナーの開催を希望します・標準化とは、共通の問題点を共有し、効率的な解決策を見出すことにあり、その面の例を出しながら開催していただくと助かります。・自律航行などの最新動向に関するセミナー・実務に生かせる標準化研修・標準化研修初級・Recreational Craft Directive 2013/53/EU review・EMC directive 2014/30/EU review
検査機関	<p>本アンケートの回答用紙の前にある「アンケートのご協力をお願い」の記載や、上述の「戦略的標準化活用基礎講座」の内容にもあったとおり、ISO規格は上手に活用できるか否かが、日本の海事産業の発展にも影響するのだろうということは、おかげさまで、頭では理解しました。自身の努力不足を棚に上げて勝手なことを申しますと、もう一歩進んで、具体的にどうすれば上手く活用できるのかについて解かりやすく教えていただけると有用かと考えます。</p>

◆ 設問8: 当協会の国際標準化への対応について

◆ 回答数(意見有): 0

◆ 設問9: その他の当会標準化活動へのご意見、ご要望等

◆ 回答数(意見有): 8

回答者	意見
造船所	<ul style="list-style-type: none">・規格を纏めることは、かなりの労力を要しますが、現状では各社の協力者はボランティアベースでの作業となり、負担が大きいです。負担が軽減されるような対策があれば、標準化活動への参加がしやすくなると思われます。・当該アンケートですが、手動集計で面倒だと思しますので、Webアンケートにすると、良いのでは考えます。(アンケート側もすこし手間が省けます)
舶用メーカー	<ul style="list-style-type: none">・JIS F 3303 のチェーンリンク及び、シャックルの寸法(標準プロポーシヨン)において、変更の無き様にしてほしい。鋳鋼、鍛造の木型、金型の問題上。・意見照会については、早めにお知らせいただけますと助かります。・防汚塗料WGならびにISO/TC8/SC2/WG5では大変お世話になっております。引き続きISO 21716シリーズ策定に向けご指導のほど、よろしく願いいたします。
団体	<ul style="list-style-type: none">・引き続き、弊会のTC 67/SC 9 (LNGに関する設置及び設備) の活動について、ご協力のほど何卒宜しく願い致します。